

例題 3-3

次の取引を仕訳しなさい。

<取引>

材料A 100,000 円 (500 kg @200 円) を購入し、代金は掛けとした。なお、買入手数料 2,000 円と引取運賃 3,000 円は現金で支払った。また、内部材料副費は購入数量を基準に予定配賦しており、その予定配賦率は@8 円である。購入原価は、購入代価に外部材料副費と内部材料副費の予定配賦額を加算している。

解説

① 内部材料副費の予定配賦額の計算

$$\text{内部材料副費} : 500 \text{ kg} \times @8 \text{ 円} = 4,000 \text{ 円}$$

② 材料の購入原価の計算

$$\text{材料購入原価} : \underbrace{100,000 \text{ 円}}_{\text{購入代価}} + \underbrace{(2,000 \text{ 円} + 3,000 \text{ 円})}_{\text{外部材料副費}} + \underbrace{4,000 \text{ 円}}_{\text{内部材料副費}} = 109,000 \text{ 円}$$

内部材料副費を予定配賦する場合、**材料副費勘定**を用いて処理する。この勘定の貸方には予定配賦額を記入し、借方には実際発生額を記入する。

解答

(借) 材 料	109,000	(貸) 買 掛 金	100,000
		現 金	5,000
		材料副費	4,000

補遺：材料副費配賦差異（原価差異の処理の詳細については 43 ページ～45 ページを参照）

材料副費を予定配賦した場合、予定配賦率により計算された予定配賦額と実際発生額とに差異が生じることが一般的である。この差異を、**材料副費差異**という。材料副費差異は、会計期末にその残高を売上原価に賦課（加算あるいは減算）することが原則である。

たとえば、例題 3-3 において、内部材料副費の実際発生額が 4,500 円であった場合、材料副費差異は、次のように算定される。

$$\text{材料副費差異} : 4,000 \text{ 円} - 4,500 \text{ 円} = -500 \text{ 円 (不利差異)}$$

また、このときの記帳は、次のとおりである。

(借) 材料副費差異 500 (貸) 材 料 副 費 500

